

長期ビジョン（基本構想）（素案）

長期ビジョン（基本構想）の目次構成とそれぞれの項目の概要

ここで言う「伊勢崎市」とは、市民及び関係人口、企業、団体、学校など、本市に関わり合いを持つあらゆる主体が協力して、都市運営を包括的に取り組んでいる伊勢崎市の状態を示す。

長期ビジョン（基本構想） 骨子

ミッション

(Why, Will)

伊勢崎市が社会で
果たすべき使命、
存在意義

I ミッション：果たすべき使命、存在意義

ビジョン

(What, Will)

伊勢崎市がこの先
どのようにありたいか
を示した、目指す
理想像

II ビジョン：ミッションを果たすための伊勢崎市のあるべき姿、未来像

1. 全体ビジョン（将来都市像）
2. まちづくりビジョン（まちづくりの大綱）

バリュー

(How, Must)

伊勢崎市がまちづ
くりの際に持つべ
き行動指針や価値
観

III バリュー：まちづくりに際して持つべき行動指針や価値観

1. まちづくりの理念

長期ビジョン（基本構想）の目次構成と概要

I. ミッション

1. 伊勢崎市としてのミッション

→伊勢崎市の特徴、強み、周辺自治体への影響力を踏まえた伊勢崎市だからこそ担うことができる役割、また、担うべき役割を定める

II. ビジョン

1. 伊勢崎市将来ビジョン

→長期的視点（長期ビジョンの計画期間である10年に縛られない）で目指す伊勢崎市の理想像。体系における最上位として位置付ける。

2. 将来ビジョン達成に向けた政策のゴール

→伊勢崎市の理想像に向けて今後10年間で達成する伊勢崎市の姿。将来ビジョンより具体性を持つものであり、政策ごとに設定する。

III. バリュー

まちづくりに際しての基本的な考え（行動指針・価値観を掲げる）

長期ビジョン（基本構想）（素案）の全体イメージ

I. ミッション（果たすべき使命、存在意義）

1. 伊勢崎市としてのミッション

- (1) 活力ある拠点の形成を
商業、工業、農業などあらゆる産業を発展させ、チャンスを生かし活力あふれる拠点を形成します。
- (2) 理想の共生社会の実現を
国籍、文化、世代、障害、地域など、様々な特性を理解し、尊重し合うことにより、新たな価値を創出し、理想の共生社会を実現します。

II. ビジョン（ミッションを果たすための伊勢崎市のあるべき姿、未来像）

1. 伊勢崎市将来ビジョン

○○○ ○○○ ○○○

2. 将来ビジョン達成に向けた政策のゴール

- (1) 子育て・教育 未来の担い手が育ち、すべての人が成長し続けられるまち
((2)~(6)省略)
- (7) 共生・共創・行財政 共に認め合い、共に創る、未来に向かって持続発展できるまち

III. バリュー（まちづくりに際して持つべき行動指針や価値観）

1. 協働による共創 市民、企業、地域団体、市役所など多様な主体がそれぞれの強みを生かしながら協力し、生き生きと過ごせるまちをともに創ります。
2. 変革による成長 めまぐるしく変化する社会情勢に対応するため、新たな考え方や先進的な技術を柔軟に取り入れながら、着実に成長していけるまちづくりを進めます。
3. 尊重による共生 地域性や国籍、性別、障害の有無などあらゆる多様性を尊重し認めあい、一人ひとりが自分らしく過ごせるまちづくりを進めます。
4. 環境志向による持続 本市のあらゆる資源を環境の視点から最大限に活用し、将来にわたって持続するまちづくりを進めます。

I. ミッション（果たすべき使命、存在意義）

■ 定性・定量調査報告書

- ✓ 工業都市としての性格が強い（P68）
- ✓ 製造業が盛んで、畑作等の農業も盛ん（P69-74）
- ✓ 外国人人口が多い（P14,P64）

■ 定性・定量調査報告書概要版（SWOT分析）

- ✓ 外国人人口割合が他市平均を上回っており、ダイバーシティの観点から地域の将来の成長力につながることや、行政ニーズの多様化が見込まれる（P3）

■ 市民アンケート報告書

- ✓ 「災害の少なさ」、「買い物の利便性」、「車移動の利便性」が住みやすい理由上位3つ（P31）
- ✓ 将来伊勢崎市がどのようになって欲しいか、最も多かったのは「高齢者や障害者などを大切にす福祉の充実したまち」（P199）

■ 高校生・大学生アンケート報告書

- ✓ 「買い物の利便性」、「災害の少なさ」、「通勤・通学先の近さ」が住みやすい理由上位3つ（P19）

■ 第2次総合計画の効果検証（サマリ）

-

■ まちづくり市民ワークショップ

- ✓ 交通の利便性の高さが伊勢崎市の魅力（第1回P12）
- ✓ 災害の少なさが伊勢崎市の魅力（第1回P13）
- ✓ 外国人との共生や多文化理解の重要性について市民の意識が高い（第1回P22）
- ✓ 伊勢崎市は産業都市（第3回P14）
- ✓ 親と子、さらに孫を基本とした世代間の交流の重要性（第3回P18）
- ✓ 障害者との共生については、ハード・ソフト両面からの支援や、市民の障害への理解の必要性（第3回P21）

■ 多文化共生キーパーソンヒアリング

- ✓ 日本と外国の文化の相互理解が必要

【盛り込む要素】

- 地域の優位性（交通の利便性や災害の少なさなど）からの産業面における活力の拠点
- 共生社会を実現する都市

1. 伊勢崎市としてのミッション

(1) 活力ある拠点の形成を

商業、工業、農業などあらゆる産業を発展させ、チャンスを生かし活力あふれる拠点を形成します。

(2) 理想の共生社会の実現を

国籍、文化、世代、障害、地域など、様々な特性を理解し、尊重し合うことにより、新たな価値を創出し、理想の共生社会を実現します。

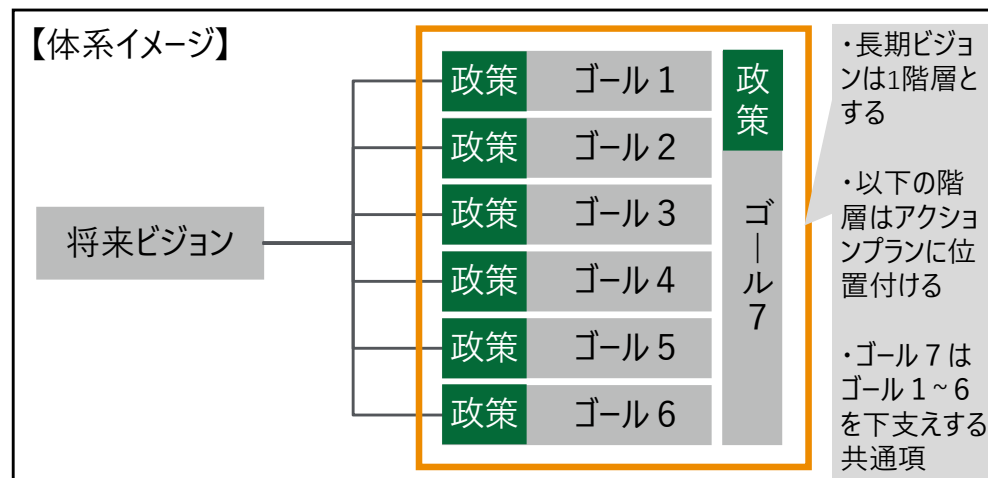
将来ビジョン達成に向けた政策のゴールの構造

現行の大綱



次期長期ビジョンに位置付ける政策のゴールの構造

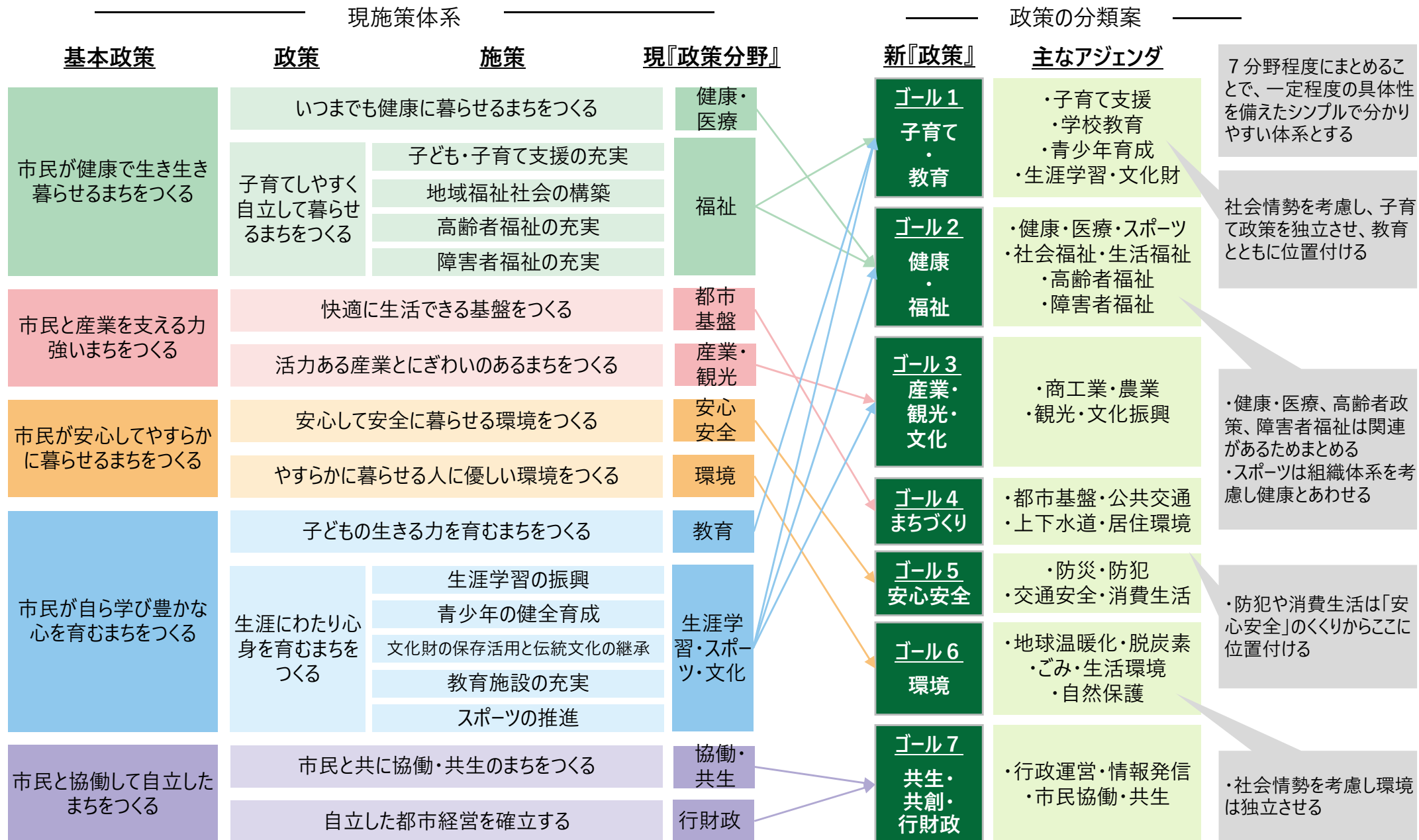
- 現状基本構想の政策レベルが2階層に分かれており、両階層とも「〇〇まちをつくる」としているが、構造をシンプルにして分かりやすくするため、次期長期ビジョンで掲げる政策は**1階層**とし、「将来ビジョン達成に向けた政策のゴール」を位置づける



- 各ゴールは政策単位で分類することとし、ゴールごとに目指す姿を端的に表現した上で、そこに込めた思いを補足として記載する。
※現行計画と比較して政策の意図をより詳細に説明する。

【例】
ゴール1：「〇〇〇〇〇〇〇〇……〇なまち」（20～40字程度）
 （込められた思い）
 〇〇……………
 ……………。
 （200字から300字程度）

将来ビジョンに向けた政策の分類案（現行の施策体系との関係）



Ⅱ. ビジョン（ミッションを果たすための伊勢崎市のあるべき姿、未来像）

①伊勢崎市将来ビジョン（課題や長所からの要素の分析）

課題解決を目指す将来ビジョン

- ✓ 外国人人口が多く多言語対応・多文化対応が課題（定性・定量調査報告書P64）
- ✓ 大型小売店や飲食店が少なく消費が他市へ流出している可能性がある。（定性・定量調査報告書P73）
- ✓ 農業の生産効率が良くない。（定性・定量調査報告書P74）
- ✓ 刑法犯認知件数が他市平均を上回っている（定性・定量調査報告書P77）
- ✓ ごみの排出量が多い。（定性・定量調査報告書P78）
- ✓ 交通弱者対策として公共交通を整備する必要がある。（SWOT分析P16）
- ✓ 伊勢崎市に住みにくい理由上位3位は「バスなどの公共交通機関が不便」、「高齢者・障害者への対応が進んでいない」、「買い物が不便」。（市民アンケート報告書P36）
- ✓ 将来への不安として「医療や介護の担い手不足」、「働き手の不足による産業の衰退」、「自身または家族の介護」が挙げられており、将来の人材不足に備える必要がある。（市民アンケート報告書P218）
- ✓ 若い世代にとって魅力的な街になるために子育てと仕事を両立しやすいまちをつくる必要がある。（市民アンケート報告書P238）

長所を伸ばす将来ビジョン

- ✓ 少子高齢化の進度が他市よりもゆるやか。（定性・定量調査報告書P64）
- ✓ 外国人人口が多くダイバーシティの観点から成長につながる可能性がある。（定性・定量調査報告書P64）
- ✓ 工業都市としての性格が強い。（定性・定量調査報告書P68）
- ✓ 製造業が盛んで、耕地面積の割合が高く畑作等の農業も盛ん（定性・定量調査報告書P69-P74）
- ✓ 住民の最寄りの避難所までの距離が平均して近い。（定性・定量調査報告書P78）
- ✓ 「災害の少なさ」、「買い物の利便性」、「車移動の利便性」が住みやすい理由上位3つにきている。（市民アンケート報告書P31）
- ✓ 現在の市のイメージとして「自然と調和したまち」が上位にきている。（高校生・大学生アンケート報告書P46）
- ✓ 交通の利便性の高さ災害の少なさが伊勢崎市の魅力。（第1回市民ワークショップP12,13）
- ✓ 公園が多いこと、車移動が便利なこと、都会と田舎のバランスが伊勢崎市の魅力として挙げられた。（第1回市民ワークショップP12,16）
- ✓ 川のある景色の良さや自然環境を伊勢崎市の好きなどころとして挙げられた。（第1回市民ワークショップP13）
- ✓ 市街地と農村部の分けがされている。（第3回市民ワークショップP15）

その他

- ✓ 将来望む姿として「高齢者や障害者を大切にする福祉の充実したまち」、「防災、防犯、救急、交通安全など安心してらせるまち」、「子育て環境と教育環境が整ったまち」、「医療・保健衛生が充実したまち」、「都市基盤が整備された便利なまち」が上位にきている。（市民アンケート報告書P199）
- ✓ SDGs・DX・GXなどを社会的課題の解決に取り組むための共通項として取り入れる（市民アンケート報告書P242）
- ✓ 現在の市のイメージは「自然と調和したまち」、「都市基盤が整備された便利なまち」が上位2位。（高校生・大学生アンケート報告書P46）
- ✓ 将来の理想として「子育て環境と教育環境が整ったまち」、「都市基盤が整備された便利なまち」、「買い物グルメが楽しめるまち」が上位3位。（高校生・大学生アンケート報告書P48）
- ✓ 若い世代にとって魅力的なまちとして「祭りなど誇れるイベント」、「買い物や交通など利便さ」、「ワークライフバランス」が挙げられた。（高校生・大学生アンケート報告書P50）
- ✓ 国籍、年齢、多文化など共生社会を理想とする意見が多く挙がった。（第1回市民ワークショップP14,18,22）
- ✓ 各世代が共に共有できる場所づくりが重要（第3回市民ワークショップP18）
- ✓ これからの変革時代に柔軟に対応できるよう、官民連携の取組などが必要。（第2次総合計画の効果検証サマリ・行財政）

（課題から得られる要素）

- ・外国人との共生社会
- ・公共交通が便利
- ・買い物などが便利
- ・治安のよいまち
- ・弱者にやさしいまち
- ・人が多いまち

（長所から得られる要素）

- ・外国人との共生社会
- ・高齢化がゆるやか
- ・産業が活性化している
- ・災害に強い
- ・交通の面で暮らしやすい
- ・自然を感じられる

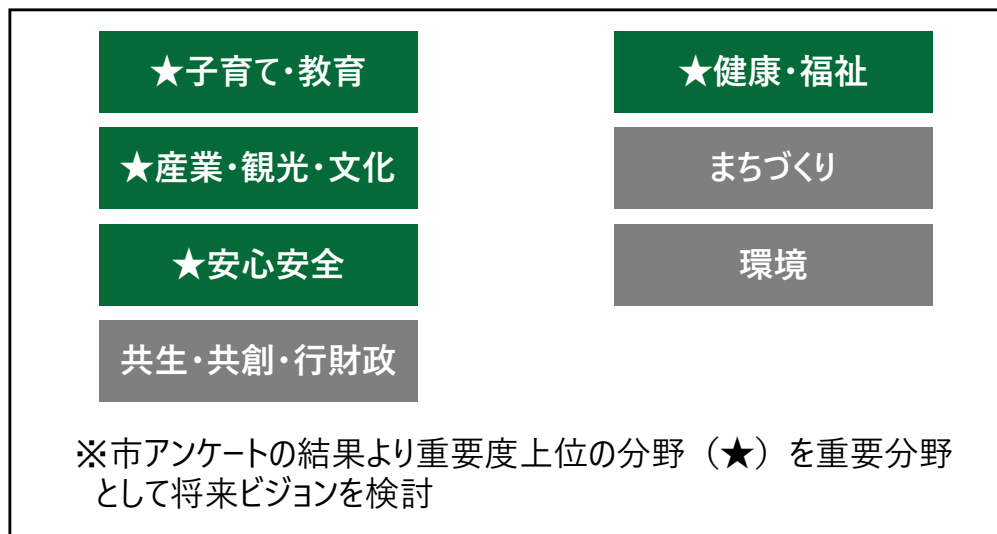
（その他から得られる要素）

- ・世代間や地域間の共生
- ・愛着のある
- ・地域の支えあい
- ・子育てしやすい
- ・多様な人の活躍
- ・多様性
- ・SDGs、GX、DX、変革
- ・共生社会

Ⅱ. ビジョン（ミッションを果たすための伊勢崎市のあるべき姿、未来像）

①伊勢崎市将来ビジョン（重要分野からの要素の分析）

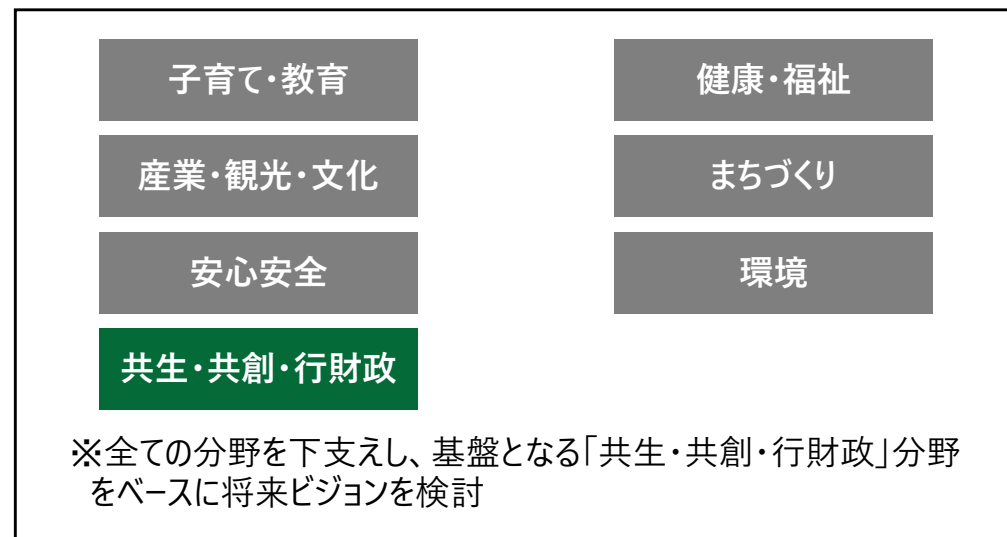
重要分野（★）を総括するもの



（重要分野から得られる要素）

- 【子育て・教育】
 - ・安心して子育てできる
 - ・しっかりと教育により成長できている
- 【健康・福祉】
 - ・支えあいの社会の実現
 - ・誰もが住み慣れた地域で暮らせる
- 【産業・観光・文化】
 - ・地域経済を活性化させる
 - ・祭りなどのイベントにより交流を生み出す
- 【安心安全】
 - ・災害に強い
 - ・治安がよい

全ての分野を下支えする
「共生・共創・行財政」分野を強調するもの



（共生・共創・行財政分野から得られる要素）

- ・外国人との共生社会の実現
- ・DX等による行政サービスの高度化
- ・市民や他自治体と協力したまちづくりの推進
- ・安定した行政経営の推進

Ⅱ. ビジョン（ミッションを果たすための伊勢崎市のあるべき姿、未来像）

①伊勢崎市将来ビジョン（要素の集約と将来ビジョン案）

（集約した要素）

<ul style="list-style-type: none"> ・共生社会、多様性 ・賑わい、活力がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・便利で暮らしやすい ・成長できる、持続可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して暮らせる ・SDGs、GX、DX、変革
---	---	---

（将来ビジョン案）

将来ビジョン案	案の説明
えがお咲く未来へ 持続可能な共生都市 いせさき	互いの違いを認めあい、皆が笑顔になれる共生社会を、未来にわたって持続していく えがお咲く・・・市のキャッチフレーズ「いせ咲く」からの連想
共に創り 共に育む みんなで輝く 元気なまち いせさき	共に創り 共に育む・・・様々な世代、地域、文化の人たちが互いに認め合い、支え合う みんなで輝く 元気なまち・・・多様な市民が活躍できる、賑わいのあるまちを目指す
いせさきの そのさきへ	GX、DXなどへ新たな取り組みを続け、伊勢崎市は、時代を見据え、常に、その一歩先を進んでいく
より住みよいまちへ変革 伊勢崎の そのさきへ	より住みよいまちへ、伊勢崎市は、GX、DXなどへ新たな取り組みを続け、SDGsの目標を達成し、常に、変革し、時代の一歩先を進んでいく
誰一人取り残さない 笑顔で支え合うまち いせさき	様々な世代、地域、文化の人たちが互いに認め合い、支え合うことで誰一人取り残すことのない共生社会の実現を目指す

Ⅱ. ビジョン（ミッションを果たすための伊勢崎市のあるべき姿、未来像）

②将来ビジョン達成に向けた政策のゴール

子育て・教育

・子育て支援・学校教育・青少年育成・生涯学習・文化財

■定性・定量調査報告書

- ✓ 国・県ではICTの活用を推進している（P22）

■定性・定量調査報告書概要版（SWOT分析）

- ✓ 少子化が懸念される一方で教員の負担が過大となっている。（P5）

■市民アンケート報告書

- ✓ 子育てしやすいまちにおいて重要視されているものとして「経済的負担の軽減」、「親の就労環境の整備」、「治安」、「保育サービスの充実」が上位にきている。（P112）
- ✓ 小中学校の教育において重要視されているものとして「不登校・いじめなどへの対応」、「心の教育充実」、「個々に対応した教育」が上位にきている。（P142）
- ✓ 将来望む姿として「子育て環境と教育環境が整ったまち」が上位にきている。（P199）

■高校生・大学生アンケート報告書

- ✓ 子どもを持ちたくない理由として「経済的理由」、「仕事との両立」、「生活や趣味の問題」が上位にきている。（P42）
- ✓ 将来望む姿として「子育て環境と教育環境が整ったまち」が上位にきている。（P48）
- ✓ 結婚子育てに意欲的な学生が多く、環境づくりが必要。（P56）

■第2次総合計画の効果検証（サマリ）

- ✓ 子育て世代に対して切れ目ない支援体制の整備を図る。（健康・医療）
- ✓ 子どもの居場所づくりが必要（福祉）
- ✓ 保育士の確保・スキル上昇が必要（福祉）
- ✓ 児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに対応（教育）
- ✓ 様々な世代が参加できる社会教育事業の展開（生涯学習）
- ✓ 現代社会に合わせた青少年の育成（生涯学習）

■まちづくり市民ワークショップ

- ✓ 10年後の理想の姿として「子供を産み育てやすい環境づくり」が挙げられた（第1回）
- ✓ 若者にとって理想のまちづくりについて子育てのしやすさについての意見が多く挙げられた。（第2回）
- ✓ 親と子、さらに孫を基本とした世代間の交流の重要性についての意見が挙げられた。（第3回P18）

【政策（ゴール）に盛り込む要素】

- 子どもを望む人が生むことができる
- 安心して子育てできる
- しっかりと教育により成長できている
- 年齢に関わらず社会教育を受けることができる

【キーワード】

子ども 担い手 希望が叶う 笑顔 成長 取り残されない 育てる
（子育ての）両立 チャレンジ 学び

ゴール1

未来の担い手が育ち、すべての人が成長し続けられるまち

Ⅱ. ビジョン（ミッションを果たすための伊勢崎市のあるべき姿、未来像）

②将来ビジョン達成に向けた政策のゴール

健康・福祉

・健康医療・スポーツ・社会福祉・生活福祉・高齢者福祉・障害者福祉

■ 定性・定量調査報告書

- ✓ 高齢化が進む中、保健・福祉分野における行政ニーズの増大が今後課題となる。（P39）
- ✓ 伊勢崎市は最寄りの医療機関までの距離が比較的近い住民が多い。（P76）

■ 定性・定量調査報告書概要版（SWOT分析）

- ✓ 保健医療分野におけるICT活用が期待されている。（P10）
- ✓ 地域包括ケアシステムを深化させる必要がある。（P10）

■ 市民アンケート報告書

- ✓ 高齢者にやさしいまちにするための意見として「介助者の相談支援」、「介護予防の推進」、「健康づくりの推進」、「周囲との交流の場の確保」、「高齢者の活躍の場の確保」が多く挙げられた。（P117）
- ✓ 将来望む姿として「高齢者や障害者を大切にする福祉の充実したまち」が上位にきている。（P199）

■ 高校生・大学生アンケート報告書

- ✓ 伊勢崎市に住みやすい理由として、医療・福祉関係を挙げている人は少ない。（P19）

■ 第2次総合計画の効果検証（サマリ）

- ✓ 疾病の早期発見・早期対応・重症化予防を図る。（健康・医療）
- ✓ 医療機関におけるICT化を推進する。（健康・医療）
- ✓ 医師確保を図る。（健康・医療）
- ✓ 福祉について市民のボランティア参加を促進する。（福祉）
- ✓ 障害者の地域生活支援を推進する。（福祉）

■ まちづくり市民ワークショップ

- ✓ 病院の多さや夜間対応が市の強みとして挙げられた。（第1回P16）
- ✓ 子どもにとって理想のまちづくりについてスポーツについての意見が多く挙げられた。（第2回P14）
- ✓ 親と子、さらに孫を基本とした世代間の交流の重要性についての意見が挙げられた。（第3回P18）
- ✓ 障害者との共生については、ハード・ソフト両面からの支援や、市民の障害への理解の必要性があげられた。（第3回P21）

【政策（ゴール）に盛り込む要素】

- 健康で過ごせる
- 支えあいの社会の実現
- 生きがいを持って暮らせる
- 誰もが住み慣れた地域で暮らせる

【キーワード】

健康 ヘルスケア 支えあい ソーシャルインクルージョン 活力
生き生き 幸福

ゴール2

誰もが健康で互いに支えあいながら生き生きと暮らせる
まち

Ⅱ. ビジョン（ミッションを果たすための伊勢崎市のあるべき姿、未来像）

② 将来ビジョン達成に向けた政策のゴール

産業・観光・文化

・商工業・農業・観光・文化振興

■ 定性・定量調査報告書

- ✓ 工業都市としての性格が強い。（P68）
- ✓ 製造業が盛んで、耕地面積の割合が高く畑作等の農業も盛ん。（P69-P74）

■ 定性・定量調査報告書概要版（SWOT分析）

- ✓ DX化などにより各種産業の発展が必要である。（P8）
- ✓ 産業の担い手確保が期待される。（P8）

■ 市民アンケート報告書

- ✓ 「災害の少なさ」、「買い物の利便性」、「車移動の利便性」が住みやすい理由上位3つにきている。（P31）
- ✓ 伊勢崎市の商業地の在り方について「身近な生活圏への店舗の立地」、「商店街の活性化」、「国道や駅周辺の商業施設の充実」が上位にきている。（P127）

■ 高校生・大学生アンケート報告書

- ✓ 伊勢崎市が住みやすい理由として、「買い物の利便性」が上位にきている。（P19）
- ✓ 将来の理想として「買い物やグルメが楽しめるまち」が上位にきている。（P48）
- ✓ 市内企業の知名度をあげてU・ターン就職を促進する必要がある。（P56）

■ 第2次総合計画の効果検証（サマリ）

- ✓ 新規就農者支援の充実。（産業・観光）
- ✓ 起業しやすい環境整備。（産業・観光）

■ まちづくり市民ワークショップ

- ✓ 交通の利便性の高さが伊勢崎市の魅力。（第1回P12）
- ✓ 10年後の理想の伊勢崎市として「雇用」を望む意見や「祭り」、「グルメ」など観光関連の意見が複数挙げられた。（第1回P20,22）
- ✓ 若者にとって理想のまちづくりについて就労・賃金についての意見や商業施設を求める意見が多く挙げられた。（第2回P18）

【政策（ゴール）に盛り込む要素】

- 地域経済を活性化させる
- 農業の生産性向上
- 祭りなどのイベントにより交流を生み出す

【キーワード】

活力 活気 好循環 交流 田園 地産地消 生産 雇用

ゴール3

経済の好循環が生まれ、活気にあふれ人が集えるまち

Ⅱ. ビジョン（ミッションを果たすための伊勢崎市のあるべき姿、未来像）

②将来ビジョン達成に向けた政策のゴール

まちづくり

・都市基盤・公共交通・上下水道・居住環境

■定性・定量調査報告書

- ✓ 全国的にインフラの老朽化が課題になっている。(P50)
- ✓ 伊勢崎市において空き家対策や中心市街地の活性化等に取り組む必要がある。(P53)
- ✓ 総面積に占める可住地面積の割合と、人口あたりの公園数が多い。(P79)

■定性・定量調査報告書概要版（SWOT分析）

- ✓ 交通弱者対策として公共交通を整備する必要がある。(P16)
- ✓ 高齢運転者の交通事故対策を推進する必要がある。(P16)

■市民アンケート報告書

- ✓ 都市基盤分野において重要だと思うことについて「道路網」と「公共交通」が多く挙げられた。(P122)
- ✓ 現在の市のイメージとして「自然と調和したまち」が上位にきている。(P194)
- ✓ 将来望む姿として「都市基盤が整備された便利なまち」が上位にきている。(P199)

■高校生・大学生アンケート報告書

- ✓ 現在の市のイメージとして「自然と調和したまち」が上位にきている。(P46)
- ✓ 将来望む姿として「都市基盤が整備された便利なまち」が上位にきている。(P48)

■第2次総合計画の効果検証（サマリ）

- ✓ 秩序のある土地利用によるまちのまとまりの形成。(都市基盤)
- ✓ 公共交通ネットワークの整備。(都市基盤)
- ✓ 汚水処理のため下水道と合併浄化槽の適正化を図る。(都市基盤)
- ✓ 上水道事業の経営安定。(都市基盤)

■まちづくり市民ワークショップ

- ✓ 公園が多いこと、車移動が便利なこと、都会と田舎のバランスが伊勢崎市の魅力として挙げられた。(第1回P12,16)
- ✓ 10年後の理想の伊勢崎市として公共交通の充実が多く挙げられた。(第1回P20)
- ✓ 子どもにとって理想のまちづくりについて公園など遊ぶ場についての意見が多く挙げられた。(第2回P12)
- ✓ 若者にとって理想のまちづくりについて交通の利便性についての意見が多く挙げられた。(第2回P17)
- ✓ 市街地と農村部の区分けがされている。(第3回P14)

【政策（ゴール）に盛り込む要素】

- 都市基盤を整備する
- 居心地の良い環境をつくる
- 便利なまちにする
- 自然との調和を図る

【キーワード】

利便性 便利 住みやすい 心地良い 快適 調和

ゴール4

住環境と自然環境が調和した、心地良い空間で暮らせるまち

Ⅱ. ビジョン（ミッションを果たすための伊勢崎市のあるべき姿、未来像）

②将来ビジョン達成に向けた政策のゴール

安心安全

・防災・防犯・交通安全・消費生活

■ 定性・定量調査報告書

- ✓ 自然災害の頻発・激甚化しており、全国・群馬県共に自然災害に対して、防災意識が高まりつつある。（P47,48）
- ✓ 住民の最寄りの避難所までの距離が平均して近い。（P78）

■ 定性・定量調査報告書概要版（SWOT分析）

- ✓ 浸水被害を想定した対策が必要。（P14）

■ 市民アンケート報告書

- ✓ 災害の少なさが市の長所と捉えられている。（P31）
- ✓ 災害対策で重要なこととして、「避難所の環境整備」、「地域での避難・見守り体制」、「インフラ整備（耐震化）」が上位にきている。（P132）
- ✓ 将来望む姿として、「防災、防犯、救急、交通安全など安心してらせるまち」が上位にきている。（P199）

■ 高校生・大学生アンケート報告書

- ✓ 伊勢崎市に住みやすい理由として、「災害の少なさ」が上位にきている。（P19）
- ✓ 駅周辺の治安や、自然、環境を気にする意見が一定数あった。（P56）

■ 第2次総合計画の効果検証（サマリ）

- ✓ 激甚化する災害への対応を図る。（安心安全）
- ✓ 地域の見守り支援の強化を図る。（安心安全）

■ まちづくり市民ワークショップ

- ✓ 災害の少なさが市の長所と捉えられている。（第1回P13）
- ✓ 子どもにとって理想のまちづくりについて治安についての意見が多く挙げられた。（第2回P13）

【政策（ゴール）に盛り込む要素】

- 災害に強い
- 住民が防災意識を持つ
- 治安がよい
- 犯罪を未然に防ぐ

【キーワード】

しなやか 強靱化 自助・公助・共助 避難 安心安全 未曾有の災害
地域防災力 守る 生命と財産 特殊詐欺

ゴール5

一人ひとりが日頃から安全を意識し、安心して暮らすことができる強くてしなやかなまち

Ⅱ. ビジョン（ミッションを果たすための伊勢崎市のあるべき姿、未来像）

②将来ビジョン達成に向けた政策のゴール

環境

・地球温暖化・脱炭素・ごみ・生活環境・自然保護

■ 定性・定量調査報告書

- ✓ 国において、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする「カーボンニュートラル宣言」がなされた。（P46）
- ✓ 群馬県は温室効果ガス排出量削減や再生可能エネルギー導入目標を設定し長期的な視点で環境保全と創造に努めている（P46,48）
- ✓ 全国・群馬県共に地球環境保全に対する意識が高まりつつある。（P46,48）

■ 定性・定量調査報告書概要版（SWOT分析）

- ✓ GXの推進によりCO2の排出量を削減する必要がある。（P14）
- ✓ ごみ排出量削減に向けた取組が必要。（P14）

■ 市民アンケート報告書

- ✓ 環境のために重要なこととして、「ごみの減量リサイクル」、「不法投棄対策」、「気候変動・地球温暖化への対策」が上位にきている。（P137）
- ✓ 現在の市のイメージとして「自然と調和したまち」が上位にきている。（P194）

■ 高校生・大学生アンケート報告書

- ✓ 現在の市のイメージとして「自然と調和したまち」が上位にきている。（P47）

■ 第2次総合計画の効果検証（サマリ）

- ✓ 再生可能エネルギーの導入及び省エネルギー化を図る。（環境）
- ✓ ごみの減量化・再資源化を図る。（環境）

■ まちづくり市民ワークショップ

- ✓ 川のある景色の良さや自然環境を伊勢崎市の好きなところとして挙げられた。（第1回P13）
- ✓ 子どもにとって理想のまちづくりについて豊かな自然についての意見が多く挙げられた。（第2回P13）

【政策（ゴール）に盛り込む要素】

- 地球温暖化対策の推進
- 環境保全の推進
- ごみの減量、リサイクルの推進
- 循環型社会の推進

【キーワード】

地球温暖化、脱炭素、緑、GX、再生可能エネルギー、循環、3R（リデュース・リユース・リサイクル）、自然環境、生物多様性、地球、持続可能

ゴール6

あらゆる活動で環境に配慮し、一人ひとりが脱炭素社会や循環型社会の実現に向けて行動できるまち

Ⅱ. ビジョン（ミッションを果たすための伊勢崎市のあるべき姿、未来像）

②将来ビジョン達成に向けた政策のゴール

共生・共創・行財政

・行政運営・情報発信・市民協働・共生

■ 定性・定量調査報告書

- ✓ 地方公共団体の歳出においては扶助費・公債費が増加している傾向がある。（P56）

■ 定性・定量調査報告書概要版（SWOT分析）

- ✓ 官民連携および行政DXの推進により、行政サービスの維持・高度化を推進することが必要である。（P18）
- ✓ 公共施設・インフラの適正な維持管理が必要。（P18）

■ 市民アンケート報告書

- ✓ 多文化共生において重要なこととして、「互いの尊重と理解」、「差別意識や偏見をもたない」ことが上位にきている。（P157）

■ 高校生・大学生アンケート報告書

- ✓ 若者のまちづくりへの参画が重要だと考えている学生が多い。（P50、56）

■ 第2次総合計画の効果検証（サマリ）

- ✓ 市民等と双方向のコミュニケーションの推進。（協働・共生）
- ✓ 人権啓発活動の推進、外国人住民との共生の推進。（協働・共生）
- ✓ 行政内部事務の効率化。（行財政）
- ✓ 公共施設等の安定的な管理運営の推進。（行財政）
- ✓ 近隣自治体との連携。（行財政）

■ まちづくり市民ワークショップ

- ✓ 国籍、年齢、多文化など共生社会を理想とする意見が多く挙がった。（第1回 P14,18,22）
- ✓ 高齢者にとって理想のまちづくりについて世代間や地域の交流についての意見が多く挙げられた。（第2回 P22,24）
- ✓ 外国人との共生、LGBTについては理解を深めることの重要性について意見が挙げられた。（第3回 P22, P23）

■ 多文化共生キーパーソンヒアリング

- ✓ 様々な場面で多言語化されており、情報を入手しやすくなった。
- ✓ 日本人も外国人も互いの文化の理解を進められると良い。

【政策（ゴール）に盛り込む要素】

- 外国人との共生社会の実現
- DX等による行政サービスの高度化
- 市民や他自治体と協力したまちづくりの推進
- 安定した行政経営の推進

【キーワード】

多文化共生 ダイバーシティ 公平 平等 インクルージョン 彩 相互理解
官民連携 DX 共創社会 持続可能 サステナブル

ゴール7

共に認め合い、共に創る、未来に向かって持続発展できるまち

Ⅲ. バリュー（行動指針、価値観）

■ 定性・定量調査報告書

- ✓ IT技術の進展により「Society5.0」の実現が見据えられている（P32）
- ✓ 自助・互助・共助・公助による地域福祉の推進（P42）
- ✓ 社会的にSDGsが推進されている。（P43）
- ✓ ICT技術の活用により公共私連携の可能性が広がる。（P58）

■ 定性・定量調査報告書概要版（SWOT分析）

- ✓ 官民連携および行政DXの推進により、行政サービスの維持・高度化を推進することが必要である。（P18）

■ 市民アンケート報告書

- ✓ 市の職員に対して「チャレンジ精神、改革力、先見性」が求められている（P165）
- ✓ 多文化共生において重要なこととして、「互いの尊重と理解」、「差別意識や偏見をもたない」ことが上位にきている（P157）
- ✓ 施策「安定的な財政運営の推進」の重要度は毎年上位10位以内に入っている（P106）
- ✓ SDGs・DX・GXなど社会的課題の解決に取り組むための共通項（市民アンケート報告書P242）

■ 高校生・大学生アンケート報告書

-

■ 第2次総合計画の効果検証（サマリ）

- ✓ 協働まちづくりに向けた住民の連帯感や共同意識の向上（協働・共生）

■ まちづくり市民ワークショップ

- ✓ 外国人が多いことが市の特徴（第1回P14）
- ✓ 外国籍、多文化に関する多くの意見（第1回P14,22）

■ その他

- ✓ 「地域の特性と資源を活用したまちづくり」（現行構想の理念）

【盛り込む要素】

皆が当事者意識をもってまちづくりに参加する
変革を恐れない
共生社会を実現する
環境志向のまちづくりを行う
持続可能な成長を果たす

○協働による共創

市民、企業、地域団体、市役所など多様な主体がそれぞれの強みを生かしながら協力し、生き生きと過ごせるまちをともに創ります。

○変革による成長

めまぐるしく変化する社会情勢に対応するため、新たな考え方や先進的な技術を柔軟に取り入れながら、着実に成長していけるまちづくりを進めます。

○尊重による共生

地域性や国籍、性別、障害の有無などあらゆる多様性を尊重し認めあい、一人ひとりが自分らしく過ごせるまちづくりを進めます。

○環境志向による持続

本市のあらゆる資源を環境の視点から最大限に活用し、将来にわたって持続するまちづくりを進めます。